

## より良き講義をめざして

### —「学生による授業評価」の分析とその活用—

坂内 正

#### 要 旨

いわゆる講義形式の科目であれ技能演習的な科目であれ、教授者の学識や意欲が十分にある場合でも結果として学習者が学んでいない—控えめに言っても効果的な学習が達成されたとは言い難い—状態がもたらされることは、不幸にしてありがちなことである。

その実態をまず認識し・原因を探り出し・講義方法の改善はもとより講義環境の整備あるいは講義科目の開設意義そのものの再検討までを実行していく手段として、本稿は「学生による授業評価」の必要性和有効性をまず論証し、さらに「学生による授業評価」の具体的な評価項目について考察を加え、評価方法と分析の妥当性の問題についても検討を試みている。

#### § 1 はじめに

大学（短期大学を含む）が研究機関としての位置付けを持つとともに教育機関としての機能ないし役割を担っていることは、法律によって定められたその設置目的からして自明のことである<sup>1)</sup>。しかしながら、講義科目の開設と講義環境については明文化された基準<sup>2)</sup>のもとに一定の第三者的チェックがあるものの、講義内容と方法に関してはこれまでのところ教授者に一任されてきた、というのが実情である。

もとより、学生の学業成績を評価する権限を含めた担当教授者の『教授権』と言われるものについては、我が国に限らず既に確立したものとして広く認められている。けれども今日問われているのは、その権利が慣習としてあるいは権威主義的に容認されるべきものとしてあるのではなく、講義科目の開設意義に照らして・さらには学部学科の目的に照らして講義内容と方法が適切であることの証明

によってのみ担保されるべきではないのか、という点なのである。

この意味において、講義の受け手である学生たちに何が伝えられたのか・伝えられ方が適切であったのかを確認する手続きは、不可欠なものと言えよう。教育職にある者が講義内容に関わる知識情報の収集整理に努めることは当然のことであるが、講義方法についても不断の工夫と改善を図っていかなければならない。そしてそれらが決して自己満足的なものに陥らないためには、「学生による授業評価」が必要性和有効性を持つ<sup>3)</sup>と、私は考えている。§ 2および§ 3においてこの点を実証的に論証し、§ 4においては具体的な評価項目についての考察を、さらに§ 5において評価方法と分析の妥当性の問題を検討することとしたい。

#### § 2 「学生による授業評価」への模索

学生たちが講義をどう受け止めているのか

すなわちどの部分に不満を感じ・どの部分を高く評価してくれているのか、それが知りたくて「講義への感想・要望などを自由に書いてください」という形でアンケートを求め始めたのは、12年前のことであった。通年科目の場合も半期で終了する科目の場合も最後の講義の際に用紙を配布し、提出期限は任意とする（＝追・再試験者発表の後で提出してもかまわない）ことにより、記述内容が学生たちの成績判定に何らかの影響を及ぼすかもしれないとの危惧を予め払拭しておく配慮も怠らなかつた<sup>4)</sup>。そうして得た学生たちの感想や要望を分析して次年度への改善点を自覚させられることが私にとっては大きな収穫であり、定期試験等の誤答分析<sup>5)</sup>と相俟って、いささかなりとも講義内容と方法に関する改善が実現できたと考えている。この方式は約9年間続けた。

1980年代後半になると大学の活性化が広く話題になり始め、その具体的な方策のひとつとして講義内容の見直しと講義方法の改善とが採り上げられるようになってきた。そうした動向のある意味で必然的な到達点として講義の一方の当事者である学生の存在が再認識されるようになったことは、大学の持つ教育機関としての機能ないし役割という原点に立ち返る意味においても重要であったし、また具体的な手続きとしての「学生による授業評価」の位置付けが確立されていくこと<sup>6)</sup>を保障することとなったのである。学生たちの率直な「声」をより正確にとらえることを願いながら、模索が続いた。

項目別の5段階評価を中心とする現在の方式に改めたのは、1991年初頭に多摩大学の学長である野田一夫氏の講演を聴く機会を得、多摩大学で実施されている「学生による授業評価」の評価用紙を目にすることができたのがきっかけであった<sup>7)</sup>。野田氏の管理主義的

な大学経営のやり方全体についてはどうしても批判的に受け止めざるを得なかつたが、評価用紙の項目の立て方が、かなり納得のいくものだったからである。また、分析のし方やその結果を学長の立場でどう利用しているかという点に関しては疑問なしとしないが<sup>8)</sup>、大学活性化のための手段のひとつとして・何よりも学生へのより良き講義の提供を促すひとつの方法として5段階評価方式の持つインパクトを予感したことも、その評価用紙に魅きつけられた大きな理由であった。

### § 3 「評価」の分析のその活用

評価項目の設定の質問の順序について若干の検討を加えた後、さっそく学生たちによる評価を得、その分析を通して以下の諸点に気づかされた<sup>9)</sup>。

- (a) 項目別の5段階評価によるものについてはクラス毎および科目毎の平均値を算出してみたが、そこから
  - 1) 各項目の全体平均値の比較により、学生から見た講義の全体的な特徴がうかがいあがり
  - 2) また項目別に科目毎の平均値を比較することにより、各科目における講義ぶりの違いが学生の目にどう映っているかが読み取れる
 ということ<sup>10)</sup>
- (b) また講義の良い点・悪い点や要望点を記述例から数の制限なしに選択させる質問については、選択者数の多かった順に並べて人数とパーセンテージ（全回答者数に対する選択者数の割合）も添えてみたが、これもまたクラス毎および科目毎に整理してみたところ、反省材料として次年度への改善点の発見におおいに役立つ

つこと

- (c) さらに最終質問の「科目担当教員の全体的な教育効果への評価」と「他の科目と比較して履修する価値があると思うか」という質問への回答とを数値的に対照してみることににより、そこに著しい差がある場合には、その科目そのものの開設の意義を問う結果になる可能性が有る（または逆に科目開設の妥当性を認めつつ担当教員の不適格性を示している可能性が有る）こと<sup>11)</sup>

以上は単年度についての分析から気づいたことであり、その後3年余りにわたって継続的に「評価」の分析を行なった結果、さらに次の諸点が明らかになった。

- (d) 上記(a)－2)で言う「講義ぶりの違い」については、講義科目の内容の違いによる面と講義環境の違い（具体的にはクラスを構成する人数やその講義が何曜日の何講目かといった諸条件、またクラス集団自身の持つ特性など）による面とがあること
- (e) 従って、「違い」はあくまで「違い」として認識すべきであって、単純な評価数値の高低比較をすべきでないこと<sup>12)</sup>
- (f) 年度毎の評価数値の比較によって講義内容や方法の改善努力が実を結びつつあるか否かを（またはむしろ改悪になっていないかを）ある程度まで判定できるのは、同一科目に限られること
- (g) しかしながら、(d)～(f)にもかかわらず、上記(a)－1)に指摘したある教授者の「講義の全般的な特徴（具体的には『大事なところを適切に指示してくれる』や『教員自身の意見とはちがった別の見方も紹介してくれる』など）」については、改

善努力による数値の上昇傾向が意外にはっきり現れること

- (h) どの年度においても、極めて少数ではあるが「教授者を全否定するような数値評価とコメント」をもたらす学生の存在が認められること<sup>13)</sup>

気づかされたこれらの点は、多摩大学方式の評価用紙に基づく「学生による授業評価」を実施してみた結果によるものでしかなく、他の方式の評価用紙に基づいて実施した場合との比較は試みてこなかったため、決して普遍性を主張できるものではない。しかしそういうものでしかないにもかかわらず、§2とこの§3において述べてきた事実そのものが既に「学生による授業評価」の必要性和有効性を十分に証明しているし、かつその分析と活用の実際における留意点をも、批判に耐えられる程度にまで指摘できたと信ずるものである。

#### §4 評価項目（観点）について

授業（講義）を評価すると言うとき、具体的にはどのような項目（観点）を設けて評価することが望ましいのだろうか？この問いに対する解答を見つけ出すために、まず授業を成り立たせているものを分類してみることから始めてみよう。そしてそこから評価の対象を明確にすることによって、正しい解答を導き出すことにしよう。

分類してみると、登場人物としては『教授者』と『学習者たち』があり、そこに『教授（学習）されるべき内容』と『講義方法』そして『場（講義環境）』が存在しなくてはならない。ここで評価の対象となるのは何か？「学生による授業評価」と言うからには、評価対象は『学習者たち』以外のすべてであ

ておかしくはないが、それぞれ例をあげて検討してみる。

(a) 教授者について

情熱を持って教えているか・学生に対して関心が深いか・親しみのもてる人柄か・明瞭な発音をこころがけているか 等

(b) 教授されるべき内容について

学生の理解水準にふさわしいか・内容に深みがあるか 等

(c) 講義方法について

準備が整っているか・ポイントをおさえているか・わかりやすい説明か・指示は適切か・一方通行になっていないか・プリントや参考文献の使用は効果的か 等

(d) 場（講義環境）について

学習に集中できる環境か・クラスを構成する人数は適切か 等

ここですぐに見てとれるのは、(d)で挙げている項目が、科目担当の教授者の責任と権限を超えている可能性が大きいことである。また、(c)の最後の項目のように科目によって評価しようのない場合があることにも、気がつく。実際、記述式の回答のなかに講義環境に関する学生の側からの不満や提案が見受けられることが多いが、予め設定する項目としては適当とは思われない。後者の場合は、講義の内容からみて評価不可能と思う項目については無理に評価をせずにおくように、という指示が必要であろう<sup>14)</sup>。

この§4においてはここまで、具体的な評価項目（観点）についての考察として、授業を成りたたせているものの分類から始めて

- 1) 評価の対象を明確化し
- 2) その対象毎に項目を列挙してみたうえで
- 3) 適切なものと不適切なもの・講義科目

の内容や方法によっては項目として不適切な場合があり得るものの区別がなされるべきこと

までを述べてきた。「学生による授業評価」がどのような形式（評価用紙）で実施されるにせよ、評価項目の設定にあたってはここに述べてきた手順と留意点が適用されるべきである、と考えるものである。

## §5 評価方法と分析の妥当性

評価方法に関しては、§2に述べたことから読み取れるとおりに

- (a) 学生に自由な記述を求める方法
- (b) 項目（観点）をたてて何段階かの数値評価を求める方法
- (c) 自由な記述と項目別の数値評価を組み合わせる方法

の3通りが考えられる。それぞれの方法の特徴について回答する側からと分析する側からの長所短所を考察しつつ、妥当性の問題を検討してみたい。

それぞれの方法の特徴と長所短所は以下のとおりである。

(a) 自由記述式

回答する側から……日ごろの思いを自分の言葉で率直に書ける点が、最大の長所である。文章にまとめるのに時間がかかること、また書くときの気分が左右されてプラスマイナスいずれにも誇張される場合が有り得ること、ついうっかりして言いたかったことを書きもらす場合もあること、等が短所である。

分析する側から……学生たちの「生の」声が聞けること、予想もしない批判や提案に出会う可能性があること、が長

所として考えられる。短所としては、読むのに時間がかかること、全体的な傾向をつかむのに表を作成してみる等の作業が別途必要になること、数値化し難いぶん受け止め方が主観性の強いものになりがちなこと、等がある。

(b) 項目別数値評価式

回答する側から……時間があまりかからないこと、数値評価の基準は学生個々のものでしかないがそれでもその学生自身の内部で相対的な数値の重みへのバランス感覚が働いて誇張がおきにくいこと、「書きもらし」がおきにくいこと、等が長所。最大の短所は、設定された項目に不適切なものがあつたり欠けているものがある場合に学生の側からそれを伝えられない点である<sup>15)</sup>。

分析する側から……長所としては尋ねたいと思う項目を網羅できること、数値化されているため平均値を算出したり全体の傾向をつかみやすいことが挙げられる。文章を読むよりはずっと短時間で済む点も大きな長所である。また数値化により受け止め方に客観性が加わることも長所と考えられるが、「回答する側から」の中でも触れているとおり数値評価の基準が学生個々のものでしかないこと＝相対的な数値の累積でしかないこと、に注意が必要である。最も大きな短所としては、項目を予め設定することにより回答を制約してしまうため学生の真意を捕らえ損なう危険がある、という点が挙げられる。

(c) 組み合わせ式

回答する側からと分析する側からとの上記(a)(b)の長所短所を踏まえ、組み合わせによって相互補完的な評価用紙を準備することができそうである。

最も望ましい「学生による授業評価」が可能になる評価方法は、以上の検討から、(c)の『自由な記述と項目別の数値評価を組み合わせる方法』であることを論証できた。また分析の妥当性についても、以上の検討から、その検討の過程で「分析する側から」欄で指摘した『客観性』の問題に注意さえすれば、十分に保証されることが判った<sup>16)17)</sup>。

## § 6 む す び

本稿の第一の目的である「学生による授業評価」の必要性和有効性の論証を既に終え、今また第二の目的である具体的な評価項目についての考察および評価方法と分析の妥当性検討を終えたわけであるが、今いちど「学生による授業評価」の意義についていくつかの点を確認し、本稿のむすびとしたい。

a) 「匿名性」のもたらす隘路

§ 2の初めに述べたとおり、私にとっての「学生による授業評価」はまず第一に「学生たちが講義をどう受け止めているのか、それが知りたい」という気持ちから出発している。もちろんそれは『より良き講義をめざして』という意識から出たものであったし、率直な批判や提案を受けることが願いだだったので、学生たちの匿名性には留意した。その点では項目別の5段階評価を中心とする現在の方式においても同様である。しかしながら、学生たちの受け止め方が気になったということ自体が、無意識のうちに私の心の中にあつた、「教育という営みが持つはずの双方向性＝教えつつ学ぶこと・教授者も学習者も共に成長していくための出会いの場としての『教育＝共育』」という発想の現れだつたのではないだろうか。その意味では、どの評価がどういう学

生によるものが見えない点が、ひとつの隘路とならざるを得ない<sup>18)</sup>。

b) 「評価」の時期に関して

一方、これまで述べてきた「学生による授業評価」は実施時期として年度末あるいは半期終了時点を想定したものであって、そのために、細かな講義内容についての評価もしくは受け止め方を知るとはほとんど不可能とならざるを得ない。仮に細かな講義内容についての指摘があったとしても、そういった学生たちの意見が反映されるのは次の学期の、別な学生たちへの講義においてである。もちろん科目の特性から学生とのコミュニケーションが不断のものになっている場合には、この種の悩みは無縁であろうが、いわゆる講義科目でクラスを構成する人数が多い場合には、何か別の方法で「毎時間の授業評価(?)」のようなものの実施を考える必要があるのかもしれない。ただしこのことが実現できた場合には、それは「授業評価」というよりはむしろ「講義内容の即時的改善のための学生からの情報提供」という性格を強く持つことになるのは、確実である<sup>19)</sup>。

c) 「評価」のめざすもの

本稿は極めて経験主義的もしくは実証主義的な論考である。しかし評価ということ自体についてのとらえ方として、本稿においては一貫して『形成的評価』<sup>20)</sup>を念頭においていることも、自ずと明らかになっているはずである。そしてその立場からは、我が国の一部の大学において進行中の「学生による授業評価」を教員に対する勤務評定への突破口とするようなやり方は、決して容認できるものではない。より良き講義をめざして一教授者も学習者も共に成長していくための出会いの場となる教育をめざ

して一着実に歩んでいきたいと、強く願うものである。

注

- 1) 学校教育法第52条、第69条の2第1項が根拠規定となっている。
- 2) 『(短期)大学設置基準』がその代表。
- 3) 評価主体となる学生たちに果たしてその適確性があるのか、という疑問を提起するむきもある。しかし、大学に入学してくるまでに12年間以上の「先生に教わる」経験を積んできた彼らは、当然ながら教え方への厳しい目を養ってきたと考えられる。もちろん「教える側」に立ったことがないために、教授者の苦心や工夫また学習者たちの側に問題がある場合などに理解が及ばず『ないものねだり』的批判になりがちな面はあるが、それもまた「教える側」に住み慣れた者への新鮮な問いかけである。  
より根本的な認識の違いとしては、大学生においては「教授→学習」というよりは「自ら学ぶ」ことが中心となるべきであって教授者の講義内容や方法をとやかく言うレベルではない、とする意見もあろう。けれども、大学の使命のひとつとしての教育という営みが、社会的な必要性に基づくものであると同時に具体的には個々の学生へのサービスであるという点を考えるならば、そのサービスが満足できるものになっているかどうかを受け手である学生たちに尋ねることは、当然のことである。
- 4) むやみに褒めちぎってその見返りとして成績を良くつけてもらおうといったレベルの学習者が皆無とは言えないし、また逆に厳しい批判を受けた教授者が成績評価において意趣返しをしないと断言できないという、いずれもおおよそ考えたくもないことではあるがしかし極めて現実的な危惧があ

ることは、あまりに悲しい。しかし提出期限についてのこうした配慮や無記名とすることによる匿名性の保障は、講義全体に対する「評価」を求める場合にはどうしても必要なことである。

配布してその場で回収するというやり方を避けた結果として、アンケート回収率がいくぶん下がるといった問題がおきたが、記入時間を十分にとれない場合は、やむを得ないこととして受け入れるしかなかった。

- 5) 誤答分析は、学習者個々の勉強のやり方の問題点を探ることができると同時に、出題の適確性の判断材料にもなるが、講義内容や方法の改善を図るための資料としても利用価値がある。
- 6) 古い伝統をもつヨーロッパのいくつかの大学の起源を思い起こしてみると、学びたい者たち（学生たち）が教師を雇い入れる形態が少なからずあったわけであるから、近年耳にすることが多くなった「大学の教育機関としての機能を学習者に焦点をあわせたものにしていかなければ、大学はたちゆかない」という意見も、実はそう目新しいものでないことに気がつく。この点をきちんと踏まえさえすれば、「学生による授業評価」の位置付けは自ずと定まる。
- 7) 『1991国際教育シンポジウム』（ISA 主催）に出席した際のことである。
- 8) クラスの構成人数の違いや講義科目の位置付けの違い（専門科目なのかそうでないのか、必修科目なのか選択科目なのか）、また講義科目の内容の違い等を無視して評価平均値を求めその高低を単純に比較するようなことは、ナンセンスである。

また野田氏によれば、次年度の担当講義科目の決定や昇任・昇格の参考に使っている（したいと思っている？）とのことだったが、そのようなことの参考にできる性質を

持った数値なのかどうかに関しては、この注の前段に述べた理由により、強い疑問を抱かざるを得ない。§ 6のc) 参照。

- 9) 使用した評価用紙を『資料1』として本稿に添えておく。
- 10) 『資料2』参照。

『資料2』は、分析の際の数値的処理の例として、実際のもを3科目示している。数値的処理の実際を参照していただき、また3つの例を比較していただくことによって、この§ 3で述べていることの裏付けがなされるはずである。

- 11) たとえば前者（評価平均値）が異常に低く後者（履修価値平均値）が高い場合、学生たちは『科目としては大切なものだが教授者が悪すぎる』と判断していると思われる。ただ、ほとんど有り得ないことではあるが『教授者の質が悪いので評価は当然低くなるが、他の科目が悪すぎるのでそれらと比較すれば履修価値はあることになる』と学生たちが判断している可能性も、ないとは言えない。しかしそんな無理な解釈をして「自分はまだマシなほうだ」などと考えるようでは本末転倒であって、何のために「学生による授業評価」を求めたのか解らなくなる。

また逆に、前者（評価平均値）が高くて後者（履修価値平均値）が異常に低い場合は、学生たちの判断は『教授者の力量や熱意は高く評価できるものの、科目そのものの開設意義に大きな疑問があって履修価値を認めにくい』というものだ、と解釈するしかないだろう。『資料1』でおわかりのとおり、「出欠チェックや成績評価の厳しさ（甘さ）は別問題として授業内容を中心と考え」ることを前提として履修価値の判定（後輩へのお薦め度）を求めているのだから、『授業としてはたしかに良い授業な

んだけど、先生が厳しすぎるから、後輩には履修を薦めない』と考えている学生が仮に多数いたとしても、それは回答に反映しないはずなのであるから。

ちなみに、これまでの私の担当講義科目の「評価」に関する限りでは（個々の学生の回答に著しい差がついている場合はあっても）回答の平均値に著しい差が出てきた例が1クラスもなかったので、今のところ解釈で悩まずに済んでいる。

12) 注の8)、17)を参照のこと。§6のc)にも関連する。

13) いわゆる「ウマが合わない」関係になってしまったのか。教授者の人格的欠陥の故に、何かの場面でその学生に立ち直れない程の精神的ダメージを与えてしまっていたのか。それともその学生が「教師」という存在そのものを嫌悪しているのか。はたまた世の中のあらゆることに否定的になってしまっている学生なのか。無記名であるため確かめられないのが、もどかしい。

14) 『資料1』参照。指示がなされている。科目毎に用紙を作り直す複雑さを避けるため用紙は1種類としたので、この指示が必要になった。『資料2』参照。数値処理の際には、評価不可能と判断した学生数を分母から除外している。もしその数が多いときは、項目そのものがその科目に不適切だったと判断すべきである。

15) 欠けているものがあると学生が思った場合、欄外に書き込む者もあるが、数値処理の際には無視されてしまうことになる。また数値処理の作業を行なうのが教授者本人でないことも有り得るが、その場合にはそのような書き込みがあったことさえ教授者が知らずに過ぎてしまうことになる。

16) 『資料2』参照。

自由選択の部分の分析にできるだけ客観性

をもたせるためには、§3の(b)に示したような方法で、選択させたものを選択者数の多かった順に並べる等の工夫が必要である。全く自由に書かせた部分についても、共通する事項を拾いあげてそれを指摘した者の数の多かった順に並べてみるといった工夫をすべきである。

17) 評価自体に数値（実際にはスケール）を用い、さらに平均値を算出することによって分析の客観化を図るのは良いとしても、数値評価の基準が学生個々のものでしかないこと＝平均値も実は相対的な数値の累積から出た数字でしかないこと、に十分注意する必要がある。

また、評価項目ひとつひとつの「授業評価」における重みは決して均等では有り得ないのだから、『授業全体としての評価』は独立した評価項目としてきちんと（常識的には評価用紙の最後の評価項目として）設定すべきであり、間違っても、評価項目全ての単純平均値をもって『授業全体としての評価』に代えるなどしてはならない。

注の8)参照。どのような方法で得た数値であれ、『授業全体としての評価』を他の科目のそれと比較してはならない。講義内容や方法が違っただけでなく、評価に大きな影響を与え得る講義環境にもずいぶんと差があるのだから。

18) 注の13)参照。

日常的にコミュニケーションを図るためには、学生が研究室を訪ねて来ることを教授者が歓迎する姿勢をもつこと・それを学生に知らせることが、まず行なわれるべきではないだろうか。（もちろん曜日や時間の限定などは差し支えない。さもなければ、研究や校務が滞ってしまうだろう）しかしそれは、本稿で扱ってきた「学生による授業評価」と直接にはつながらない、異なっ



た次元の問題であるようだ。

- 19) この種の実践も3年ほど前から行なっているが、学生が完全に誤解してしまっている部分があることに気づかされたり、理解しにくかった箇所やもっと詳しく知りたいことについての質問が記載されていたりなどして、学生たちの理解水準や関心の高い部分がかかなりよく判ったことは、大きな収穫であった。翌週の補足説明もやがて講義のながれの一部となり、講義そのものの組み立てについて学んだことも多かった。それらの結果として「英語専攻の女子短大生の『英語史』および『日英語比較』における関心と理解」をめぐる考察を行なえたわけであるが、それについては稿を改めて発表したい。
- 20) スクリバンが提唱しブルームが理論づけた用語。『評価』の目的として、評価される側の学習習慣の形成や意欲的な態度の養成を第一義的なものとする、評価観のこと。あらゆる『評価』は多かれ少なかれ形

成的評価としての面を持っているが、『診断的評価』や『総括的評価』と対照してこの語が使われる。本稿では教授者の習慣形成・態度養成を念頭においての、学生による授業『評価』について述べてきたわけである。

#### 参考文献

- 稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏編『教育の原理Ⅱ 教師の仕事』東京大学出版会 1985年
- 武田常夫『真の授業者をめざして』国土社 1971年
- ブルーム、B. S. 他著 梶田叡一他訳『教育評価法ハンドブック』第一法規 1973年
- モレンハウアー、クラウス著 今井康雄訳『忘れられた連関《教えるー学ぶ》とは何か』みすず書房 1987年
- 谷田貝公昭・佐藤弘毅共編『教育学概論 [改定版]』酒井書店 1988年

(資料1 評価用紙)

学生による授業評価

1994年1月

科目名 \_\_\_\_\_ 担当教員名 坂内 正

1. この授業の担当教員について、以下の項目に関して最もあてはまると思う評価数字（5段階評価）に○印をつけて下さい。評価するだけの情報がない・または授業の内容から考えて評価不可能と思う項目に関しては、右端の（ ）にチェックを入れて下さい。

	まったく その通り	4	普通	3	全然そう ではない	2	1	わからない
(1) 担当科目に情熱をもっている	5	4	3	2	1	( )		
(2) よく準備してくる	5	4	3	2	1	( )		
(3) 説明がわかりやすく全体としてまとまりがある	5	4	3	2	1	( )		
(4) 大事なところを適切に指示してくれる	5	4	3	2	1	( )		
(5) 授業が興味深く触発されることが多い	5	4	3	2	1	( )		
(6) 教員自身の意見とはちがった別の見方も紹介してくれる	5	4	3	2	1	( )		
(7) 学生に対して関心が深い	5	4	3	2	1	( )		
(8) 学生の理解力水準をよくわかっている	5	4	3	2	1	( )		
(9) 授業を静粛に保つよう努力してくれる	5	4	3	2	1	( )		
(10) 学生の発言をうながし参加を求めてくれる	5	4	3	2	1	( )		

2. この授業の担当教員について良い点・悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○印をつけて下さい。

◎良い点

- 1 丁寧でわかりやすい
- 2 ポイントをおさえている
- 3 基礎的なことから説明する
- 4 説明が体系的でまとまっている
- 5 内容に深みがあって、教養を感じる
- 6 プリントや参考文献の使用が効果的である
- 7 雑談やエピソード的な話が面白く、ためになる
- 8 聞かせよう・わからせようという、熱意がある
- 9 授業にメリハリ（活気）がある
- 10 人柄に親しみもて、授業が楽しみである
- 11 口調が明瞭で聞き取りやすい
- 12 その他 \_\_\_\_\_

◎悪い点や要望点

- 1 自分勝手にわかりにくい
- 2 ポイントがはっきりしない
- 3 説明をもっと詳しくしてほしい
- 4 説明がくどく無駄が多い
- 5 説明が体系的でなく、流れがつかめない
- 6 教材説明が中心で関連（発展的）事項の説明が少ない
- 7 雑談やエピソード的な話が少なく、面白みがない
- 8 熱意がない（おしゃべり学生もほったらかし）
- 9 授業が単調で平板（活気がない）
- 10 人柄が悪く、授業が苦痛である
- 11 声が小さくて聞き取りにくい
- 12 口調が早くて聞き取りにくい
- 13 口ごもってはっきりしないので、聞き取りにくい
- 14 その他 \_\_\_\_\_

3. 全体的評価（5段階評価）

(1) あなたとしては、この科目担当の教員の全体的な教育効果を、どのように評価しますか？

きわめて効果的である                      一応効果的だ                      まったく効果的でない  
5                      4                      3                      2                      1

(2) 出欠チェックや成績評価の厳しさ（甘さ）は別問題として授業内容を中心に考えてみて、この科目を北星短大の他の科目と比較した場合、あなたの親しい後輩たちが履修する価値がある授業だと思いますか？

きわめてとる価値がある                      一応とる価値がある                      まったくとる価値がない  
5                      4                      3                      2                      1

4. この授業内容を良くするための意見があれば、書いて下さい。（裏面にも）

(資料2 学生による授業評価) 分析の数値処理の例、ⅠとⅡは1992年の記録、Ⅲは1994年)

Ⅰ. 日英語比較 (2年生後期、必修科目) 78名/116名 (回収率 67.2%)

1. この授業の担当教員について、以下の項目に関して最もあてはまると思う評価数字 (5段階評価) に○印をつけて下さい。評価するだけの情報がない・または授業の内容から考えて評価不可能と思う項目に関しては、右端の ( ) にチェックを入れて下さい。

	まったく その通り		普通		全然そう ではない	わから ない	評価平均
	5	4	3	2	1	( )	
(1) 担当科目に情熱を持っている	(31名)	(28名)	(17名)			(2名)	[4.2]
(2) よく準備してくる	(20名)	(16名)	(32名)	(10名)			[3.6]
(3) 説明がわかりやすく全体としてまとまりがある	(2名)	(17名)	(45名)	(14名)			[3.1]
(4) 大事なところを適切に指示してくれる	(15名)	(30名)	(29名)	(4名)			[3.7]
(5) 授業が興味深く触発されることが多い	(3名)	(19名)	(51名)	(5名)			[3.3]
(6) 教員自身の意見とはちがった別の見方も紹介してくれる	(4名)	(21名)	(33名)	(10名)	(4名)	(6名)	[3.2]
(7) 学生に対して関心が深い	(12名)	(23名)	(32名)	(7名)		(4名)	[3.5]
(8) 学生の理解力水準をよくわかっている	(4名)	(16名)	(50名)	(7名)		(1名)	[3.2]
(9) 授業を静粛に保つよう努力してくれる	(8名)	(15名)	(41名)	(9名)	(3名)	(2名)	[3.2]
(10) 学生の発言をうながし参加を求めてくれる	(15名)	(28名)	(33名)	(1名)		(1名)	[3.7]

2. この授業の担当教員について良い点・悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○印をつけて下さい。

◎良い点 (○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります)

- a) 聞かせよう・わからせようという、熱意がある…………… (48名 61.5%)
- b) 雑談やエピソード的な話が面白く、ためになる…………… (48名 61.5%)
- c) 基礎的なことから説明する…………… (33名 42.3%)
- d) 口調が明瞭で聞き取りやすい…………… (25名 32.0%)
- e) 人柄に親しみがもて、授業が楽しみである…………… (24名 30.8%)
- f) ポイントをおさえている…………… (20名 25.6%)
- g) 授業にメリハリ (活気) がある…………… (19名 24.4%)
- h) 丁寧でわかりやすい…………… (16名 20.5%)

- i) プリントや参考文献の使用が効果的である…………… (10名 12.8%)
- j) 説明が体系的でまとまっている…………… (8名 10.3%)
- k) 内容に深みがあって、教養を感じる…………… (8名 10.3%)
- l) その他…………… (0名)

◎悪い点や要望点 (○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります)

- a) 説明をもっと詳しくしてほしい…………… (24名 30.8%)
- b) 口調が早くて聞き取りにくい…………… (15名 19.2%)
- c) 説明が体系的でなく、流れがつかめない…………… (12名 15.4%)
- d) ポイントがはっきりしない…………… (12名 15.4%)
- e) 説明がくどく無駄が多い…………… (9名 11.5%)
- f) 雑談やエピソード的な話が少なく、面白みがない…………… (4名 5.1%)
- g) 授業が単調で平板 (活気がない) …………… (3名 3.8%)
- h) 自分勝手にわかりにくい…………… (1名 1.3%)
- i) 教材説明が中心で関連 (発展的) 事項の説明が少ない…………… (1名 1.3%)
- j) 口ごもってはっきりしないので、聞き取りにくい…………… (1名 1.3%)
- k) 人柄が悪く、授業が苦痛である…………… (1名 1.3%)
- l) 熱意がない (おしゃべり学生もほったらかし) …………… (0名)
- m) 声が小さくて聞き取りにくい…………… (0名)
- n) その他…………… (5名)
  - ア) 私語をする学生に対してもっと厳しく (=教室から出すとか) …………… 《3名》
  - イ) 忘れっぽくて、ときどき自分が何の話をしてたのか思い出せない…………… 《1名》
  - ウ) 進み方が速いと感ずることがある…………… 《1名》

### 3. 全体的評価 (5段階評価)

(1) あなたとしては、この科目担当の教員の全体的な教育効果を、どのように評価しますか?

きわめて効果的である                      一応効果的だ                      まったく効果的でない

5    4    3    2    1

(9名 11.5%) (39名 50.0%) (28名 35.9%) (1名 1.3%) (1名 1.3%)

評価平均 [3.7]

(2) 出欠チェックや成績評価の厳しさ (甘さ) は別問題として授業内容を中心に考えてみて、この科目を○○短大の他の科目と比較した場合、あなたの親しい後輩たちが履修する価値がある授業だと思いますか?

きわめてとる価値がある                      一応とる価値がある                      まったくとる価値がない

5    4    3    2    1

(12名 15.4%) (40名 51.3%) (25名 32.1%) (0名) (1名 1.3%)

評価平均 [3.8]

4. この授業内容を良くするための意見があれば、書いて下さい。

- a) もう少しゆっくり進める。
- b) 始める時間と終わる時間がびっちりなので、余裕を与えるべきだ。
- c) もう少し短縮してほしいな。5分くらい。
- d) がんばれよ!
- e) 一生懸命やってくれているのでいいと思う。少し、キツイ言葉がたまに出てくるのがあがる気がするので、なるべく言わないほうがいいと思う。
- f) 先生は生徒に無関心に見えることがある。怒っているのかどうか分からないところが怖い。でもこのまえ授業の最後に先生が話したことは、あんなふうに先生が話すことは短大ではないことなので、いろいろ考えさせられた。
- g) クラスの人数が多すぎて、どうしても後ろの席の人たちがザワつく。なんとかしてほしい。

Ⅱ. 英 語 (1年生通年、必修科目) 38名/46名 (回収率 82.6%)

1. この授業の担当教員について、以下の項目に関して最もあてはまると思う評価数字 (5段階評価) に○印をつけて下さい。評価するだけの情報がない・または授業の内容から考えて評価不可能と思う項目に関しては、右端の ( ) にチェックを入れて下さい。

	まったく その通り		普通		全然そう ではない		わから ない ( )	評価平均
	5	4	3	2	1			
(1) 担当科目に情熱を持っている	(24名)	(7名)	(7名)					[4.4]
(2) よく準備してくる	(5名)	(7名)	(23名)	(3名)				[3.4]
(3) 説明がわかりやすく全体としてまとまりがある	(5名)	(15名)	(17名)	(1名)				[3.6]
(4) 大事なところを適切に指示してくれる	(11名)	(17名)	(10名)					[4.0]
(5) 授業が興味深く触発されることが多い	(5名)	(10名)	(16名)	(6名)	(1名)			[3.3]
(6) 教員自身の意見とはちがった別の見方も紹介してくれる	(1名)	(7名)	(19名)	(5名)	(1名)	(5名)		[3.1]
(7) 学生に対して関心が深い	(4名)	(10名)	(17名)	(6名)		(1名)		[3.3]
(8) 学生の理解力水準をよくわかっている	(2名)	(7名)	(24名)	(4名)	(1名)			[3.1]
(9) 授業を静粛に保つよう努力してくれる	(3名)	(9名)	(23名)	(3名)				[3.3]
(10) 学生の発言をうながし参加を求めてくれる	(9名)	(12名)	(14名)	(2名)	(1名)			[3.7]

2. この授業の担当教員について良い点・悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○印をつけて下さい。

◎良い点（○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります）

- a) ポイントをおさえている…………… (26名 68.4%)
- b) 雑談やエピソード的な話が面白く、ためになる…………… (21名 55.3%)
- c) 聞かせよう・わからせようという、熱意がある…………… (20名 52.6%)
- d) 基礎的なことから説明する…………… (14名 36.8%)
- e) 口調が明瞭で聞き取りやすい…………… (13名 34.2%)
- f) 人柄に親しみがもて、授業が楽しみである…………… (12名 31.6%)
- g) 丁寧でわかりやすい…………… (10名 26.3%)
- h) 説明が体系的でまとまっている…………… (8名 21.1%)
- i) 内容に深みがあって、教養を感じる…………… (4名 10.5%)
- j) 授業にメリハリ（活気）がある…………… (3名 7.9%)
- k) プリントや参考文献の使用が効果的である…………… (0名)
- l) その他…………… (0名)

◎悪い点や要望点（○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります）

- a) 授業が単調で平板（活気がない）…………… (6名 15.8%)
  - b) 説明がくどく無駄が多い…………… (5名 13.2%)
  - c) 口ごもってはっきりしないので、聞き取りにくい…………… (5名 13.2%)
  - d) 説明が体系的でなく、流れがつかめない…………… (4名 10.5%)
  - e) 雑談やエピソード的な話が少なく、面白みがない…………… (4名 10.5%)
  - f) 口調が早くて聞き取りにくい…………… (4名 10.5%)
  - g) 人柄が悪く、授業が苦痛である…………… (4名 5.3%)
  - h) 説明をもっと詳しくしてほしい…………… (2名 5.3%)
  - i) ポイントがはっきりしない…………… (2名 5.3%)
  - j) 教材説明が中心で関連（発展的）事項の説明が少ない…………… (2名 5.3%)
  - k) 熱意がない（おしゃべり学生もほったらかし）…………… (1名 2.6%)
  - l) 自分勝手にわかりにくい…………… (0名)
  - m) 声が小さくて聞き取りにくい…………… (0名)
  - n) その他…………… (4名)
- ア) 雑談が長びく…………… 《1名》
  - イ) 時間が足りなくなると早口になってしまい、わかりづらかった…………… 《1名》
  - ウ) できれば、訳はもう少しゆっくりしてほしい…………… 《1名》
  - エ) (良い点でもあるが)最後の最後まで授業をするので、きりのいい所で止めてみることも時には必要ではないかと思う…………… 《1名》

3. 全体的評価（5段階評価）

(1) あなたとしては、この科目担当の教員の全体的な教育効果を、どのように評価しますか？  
 きわめて効果的である                      一応効果的だ                      まったく効果的でない

5                      4                      3                      2                      1  
 (4名 10.5%) (17名 44.7%) (17名 44.7%) (0名) (0名)

評価平均 [3.7]

(2) 出欠チェックや成績評価の厳しさ（甘さ）は別問題として授業内容を中心に考えてみて、この科目を〇〇短大の他の科目と比較した場合、あなたの親しい後輩たちが履修する価値がある授業だと思いますか？

きわめてとる価値がある                      一応とる価値がある                      まったくとる価値がない  
 5                      4                      3                      2                      1  
 (7名 18.4%) (16名 42.1%) (14名 36.8%) (1名 2.6%) (0名)

評価平均 [3.8]

4. この授業内容を良くするための意見があれば、書いて下さい。

- a) このままでよい。
- b) 生徒がしっかり予習をしてくる。
- c) 試験をする時にせっかく単語を覚えても、すぐに忘れてしまうので単語を覚えれるような授業をしてほしいです。
- d) 教材が、モエさんのぐちみたいな所もあったので、もう少しちがうのを選んで？ たくさんの時間をかけて1年間やってきたけど、英語のおもしろさがみえないのはなぜだろう。
- e) 授業を行う教室に恵まれなかった。ハチの巣のないところや暑すぎない良い教室で行うと、予定通り進むと思う。
- f) もう少し根気を持って、学生の発言を待ってほしい。
- g) 授業のことばかりずっと言っているのではなく、映画の話とかいろいろしてくれたので、楽しかった。
- h) 英会話を主にしてほしいと思います。“英語”科目自体は大事だと思いますが、入試要項のパンフレットと不一致な点が見られると思います。これは私一人だけの意見ではありません。

Ⅲ. リーディングB（1年生通年、必修科目） 38名/45名（回収率 84.4%）

1. この授業の担当教員について、以下の項目に関して最もあてはまると思う評価数字（5段階評価）に○印をつけて下さい。評価するだけの情報がない・または授業の内容から考えて評価不可能と思う項目に関しては、右端の（ ）にチェックを入れて下さい。



より良き講義をめざして

	まったくその通り		普通		全然そうではない		わからない ( )	評価平均
	5	4	3	2	1			
(1) 担当科目に情熱を持っている	(22名)	(4名)	(9名)	(1名)	(2名)			[4.1]
(2) よく準備してくる	(18名)	(5名)	(13名)	(1名)	(1名)			[4.0]
(3) 説明がわかりやすく全体としてまとまりがある	(6名)	(10名)	(17名)	(3名)	(1名)	(1名)		[3.5]
(4) 大事なところを適切に指示してくれる	(5名)	(17名)	(11名)	(3名)	(1名)	(1名)		[3.6]
(5) 授業に興味深く触発されることが多い	(5名)	(9名)	(14名)	(7名)	(2名)	(1名)		[3.2]
(6) 教員自身の意見とはちがった別の見方も紹介してくれる	(11名)	(7名)	(11名)	(5名)	(2名)	(2名)		[3.6]
(7) 学生に対して関心が深い	(17名)	(10名)	(8名)	(1名)	(1名)	(1名)		[4.1]
(8) 学生の理解力水準をよくわかっている	(4名)	(9名)	(12名)	(8名)	(3名)	(2名)		[3.3]
(9) 授業を静粛に保つよう努力してくれる	(5名)	(12名)	(15名)	(4名)	(1名)	(1名)		[3.3]
(10) 学生の発言をうながし参加を求めてくれる	(12名)	(15名)	(8名)	(1名)	(1名)	(1名)		[4.0]

2. この授業の担当教員について良い点・悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○印をつけて下さい。

◎良い点 (○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります)

- a) ポイントをおさえている…………… (21名 55.3%)
- b) 雑談やエピソード的な話が面白く、ためになる…………… (18名 47.4%)
- c) 聞かせよう・わからせようという、熱意がある…………… (18名 47.4%)
- d) 口調が明瞭で聞き取りやすい…………… (13名 34.2%)
- e) 丁寧でわかりやすい…………… (11名 28.9%)
- f) 人柄に親しみがもて、授業が楽しみである…………… (8名 21.1%)
- g) 基礎的なことから説明する…………… (7名 18.4%)
- h) 内容に深みがあって、教養を感じる…………… (6名 15.8%)
- i) 説明が体系的でまとまっている…………… (4名 10.5%)
- j) 授業にメリハリ(活気)がある…………… (4名 10.5%)
- k) プリントや参考文献の使用が効果的である…………… (0名)
- l) その他…………… (0名)

◎悪い点や要望点 (○印をつけた学生の数が多かったものから順に、並べ替えてあります)

- a) 説明をもっと詳しくしてほしい…………… (6名 15.8%)
- b) 説明がくどく無駄が多い…………… (5名 13.2%)

